

群馬県 グループホーム竹の里 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自然と親しみ安心して暮らせる環境作りと、常に笑顔で接し自立に向けての介護とリハビリ、そして人格の尊厳を大切にいき理解者として介護にあたる		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	言葉使いに気をつけ、プライドを傷つけないような対応で接している		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	日々介護で理念を生かしているが、地域住民にあえて話していない 推進会議で家族会に説明し話しあっている		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の途中やごみ出しの途中などで挨拶をしたり世間話などを行っているが、近所の人気軽に施設に遊びに来られる関係はまだ出来ていない	○	庭のテラスでお茶を飲んだりするときに声をかけてみようと思っている
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の活動に参加の経験はない。事業所側から出かけて行くことは難しい 学校の運動会などには参加希望を出してある	○	孤立はしていないが地域との交流はまだ浅い これから民生委員の人と情報を共有していきたいと思っているボランティアの映画会では地域の人に声をかけて一緒に鑑賞している

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月ボランティアの人が映画会を開いてくれるのでこの時に地域の人に声をかけて一緒に鑑賞している		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議の中で評価について職員一人一人に項目を読んでもらい話し合っている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3カ月に一度の推進会議を開き利用者の様子や施設の行事などの報告をし家族からの要望や意見を聞いている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月一度市役所で会議があり 意見交換や相談などを行っている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては職員はまだ知識が少ない	○	研修に参加したり職員会議のときに勉強していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に言葉の虐待に注意することと、むやみに車椅子に乗せない、また、判断に困ったときは職員の間で話合っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を読んでもらいながら質問を聞き施設側の方針を契約のときに説明している。又家族からの要望や承諾をもらっている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に不満が見えるときは愛称の合う職員が寄り添い遠慮なく言える場を作っている。月に一度の介護相談員の訪問もある	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2カ月に一度ホーム便りを家族へ郵送し日常生活ぶりやサービス提供の報告をしている。新しい職員の紹介も面会のときにしている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し苦情や相談に対応している	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の職員会議で意見を出し合ったり日常の業務の中で職員が気が付いたことなどを管理者に報告している。が、なかなか希望どおりにいかない	○ 職員間のコミュニケーションを多くとれるように、ストレスを溜めないように管理者が把握していきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表を作るときに職員の休暇希望を先に聞き業務に支障がないようお互いに協力しながら作っている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意向を聞きなるべく慣れた職場で働きやすいように努めている。又開設当時から職員が引き続き働いており新しい職員が入ったときは利用者に安心してもらえるように指導している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や職員に合った(必要と思われる研修)には受講するようにはなしている</p>	○	職員には順次研修を受けさせ技術や知識を身につけ質の向上を図りたい
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>毎月1回市の会議に出席して疑問点等話し合い、相談したりしてサービスの向上に努めている。又入所希望者が来たとき空き室がない時は他の業者を紹介し交流コミュニケーションをしている</p>	○	市内にグループホーム連絡協議会を作り研修会を実施できれば良いと思う
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員には毎月休みたい日を聞き本人の自由になるようにしている。仕事の面でも時々手助けをしている</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>毎月1回職員で意見交換している</p>	○	なにごとにも良く気づき本当にその人に合った介護ができ整理整頓を率先してできるように指導していきたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人が望んでいることは何か。又本人はどうしたいのか、本人とじっくり話す時間を作っている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会にきたときに家族からの要望や日頃の利用者の様子や体調など細かく家族に報告したりお茶の時間を作ったりしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意見が違うことがあり施設だけの対応が難しいこともあった	○	家族へ連絡し本人側と家族側の要望を聞き医師も交えて話し合いの時間を作っている
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が訪問に来たときに本人のこれまでの生活を聞き家庭での生活の延長となるように、又本人にも見学に来てもらい気軽になんでも言える信頼関係を作っている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の歌を歌ったり戦争時代の話を聞いたりしてレクリエーションや散歩を通して話題を共有している		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族もホームにいることで安心できるように常に連携をとっている。家族がなんでも話せる雰囲気作りに努力している		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の要望を電話で家族に伝えたり家族にも面会や外出の時間を多く作ってもらうように話している	○	施設まかせにならないように、なるべく家族とのかかわりをもってもらうようお願いしていきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	学生時代の同級生が面会に来てくれるが、こちら側から出かけていくことはむずかしい	○	家族の協力があれば可能と思われるが、職員の人数の関係もあるので考えていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気のある人は席を隣にしたり車椅子の人は時間帯で場所の異動をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後ほかの施設へ移動の場合は様子を家族へ連絡し聞いている	○	管理者が時々施設へ行き様子を聞いている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞き認知症の方は特に混乱しないようにパニックになったらどうすればよいか、職員間で話し合い情報交換をしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のケア記録の表紙の裏に生活歴や病歴をまとめて書きサービスを提供するにあたり参考にしてている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフ全員がケア記録に目を通し、日々の変化を確認している。又新しい変化や、異常なことがあったときは、特記事項にメモするようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスのときに職員から意見やアイデアを聞いてプランの作成をしている。ケアマネがほとんどしている	○	家族からの情報量が足りないことと、サービス内容を職員が全員把握していないことが欠点に思う
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月のプラン見直しと、本人の体調に応じた見直しをしている。管理者兼務ケアマネのため毎日の変化がわかる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人が発した言葉や目立った動作など具体的にケア記録に書いている。	○	ケア記録は一人が書くのではなく、その日にかかわった職員が一行でもいいから感じたことを書くようにしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自然に囲まれるのどかな場所にあるため散歩に出たり外でお茶を飲んだりしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の人を招いて映画鑑賞を楽しんだり、学生を受け入れて外部からの刺激で生活の活性化を計っている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	保険以外のサービスは利用していない	○	ケアマネとの情報交換はしているが、他のサービスについては家族と話し合いながら考えていきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	月1回の市の調整会議に参加して包括センターとの情報交換をしている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携をとりながら月1回の往診をしている。又家族からの依頼があれば、そのつど他の医療機関にも通院している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>家族の面会や主治医の往診時にもターミナルのことについて話合う機会を作りたいと考えている</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を大切に人生の先輩であることを念頭に介護している。が、本人の前ではっきり言い過ぎる言葉を発してしまう時がある。例えば排便など	○ 記録の表現のしかたが難しく指示 命令的な言葉を使ってしまうので注意したい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	朝の着替えのときなど、いくつかの洋服を出し本人に選んでもらい着ている。本人の意思に任せている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員が同じ対応をするのではなく、個性を尊重しながら対応している	○ 夜間の時間帯などは、優先順位を判断し本人の希望に添うようにしていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容 美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族が美容院へ連れていったり、ホームに美容師がきて髪をカットしてもらったりしている。化粧ボランティアがきて女性にお化粧をしてもらったりした	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と同じテーブルにすわり、食事の確認をしながら食事をしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の好みどおり調理することはしていないが、献立にそって体調の変化を見ながら応じている。おやつは体力に応じは量にしたり好みの物を聞いて采配したりしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便チェック表を作り体調に応じて服薬したり、日頃の行動を観察しながらケアしている。リハビリパンツから布パンツへ自立した例もある		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴日を決めているが入浴チェック表で体調を確認しながら行っている。時により拒否の人もある。又菖蒲湯やゆず湯など季節感を味わっている。	○	入浴できない人には足浴などとりいれて、入浴の爽快感を味わってもらい入浴するようにつなげたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼休みは照明を暗くしたりレクの後には疲れの見えるひとには声かけてベッドで横になってもらっている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションの進行係りやカルタの読み手、又ごみ出しなど役割を持ってもらっている。裁縫が得意な人もいるので、ぞうきんなど縫ってもらっている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者にお金を持ってもらうことは、していない。が一緒に買い物に行きお手伝いをしてもらっている	○	大半の人が被害妄想があり物を色々なところに隠してしまうために管理者がこ使銭を預かっている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週1～2回約30分くらい散歩に出かけたり庭のテラスでお茶を飲んで外気に触れている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族が向かえに来て外食など個別に対応している。ホームの対応として年2回遠出の日帰り旅行を計画している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2ヶ月に1回発行されるホームたよりの中に本人の自筆による家族宛のメッセージを取り込んでいる(毎回ではない)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中の時間ならいつでも歓迎し、本人の体調が悪いときは家族が希望すれば泊まることもしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時により不安定な状態のときは夜間のみベット柵をすることも ある		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	時間に関係なく玄関は鍵をしている	○	利用者の居場所の確認を必ずする事を鉄則し時間帯を作り鍵をかけない工夫をしていこうと思う
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	トイレに行ってなかなか出てこないときなど声かけし安全を確かめている。昼夜とわず危険がないか目を光らせている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる物はホームで保管している。本人が必要になり依頼すれば介護者が見守り、使用後は預かっている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤嚥の危険のある人にはキザミ食やミキサー食を作ったり食事の前に水分を取ってもらったりしている。又、年2回避難訓練をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師が緊急時や応急処置の手順を書き掲げている。職員全員で勉強会もしている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近くに消防署もあり協力していただき避難訓練や消火訓練も計画し実施している		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族が面会にきたときに現状報告するとともに施設側の対応についても聞いてもらう		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	特別の変化が見られた時は、必ずケア記録にメモし口頭でも職員間で情報をし様子を見守りながら家族へ連絡を入れることもある		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を見やすい所に貼り全職員が把握している。保管、仕分けは看護師が責任を持ってしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表が作っており、排便リズムや水分補給の確認と、運動、腹部のマッサージなどしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後義歯の洗浄とうがい、食事の残った量の確認をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量の確認を記録したり、体重表や尿とりパットの尿量の確認をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの接種や肺炎ワクチンの接種など家族に相談し行っている。常に手洗いを習慣づけている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日食器の消毒、まな板やふきんの除菌をしている。買い物は長期の保存は避け新鮮なものを毎日買うようにしている。施設の前に畑があり無農薬のとれたての野菜が食べられている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を置いたり庭先に花の種をまいたり、出入り口はスロープになっていて、てすりも取り付けがあり安心して歩行できる		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には、写真や利用者と一緒に作った作品などが貼られていて、職員の協力で季節ごとにパッチワークで模様替えもされる		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が一人になれる場所は居室だけである	○	使っていない椅子を利用し2、3人がおしゃべりできるような場所を考えたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の個性を大切にして、本人が安心できる居室にしてもらうように自由にもらっている。が好みのものを置きすぎてちらかってしまい職員が管理していることもある	○	洋服や下着など自分のまわりにあると何枚も身につけてしまうので危険なため2人ほど別の場所に管理し本人の依頼に応じて出し入れしている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温計と加湿器をつけて常に温度が20℃～24℃をめやすに調整している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に合ったベットの高さの調整や歩行しやすいように環境の整理をしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの戸にトイレと書いて貼ってあるがわからなくなってしまう人もいたのでお便所と書いて貼ってみた。居室も迷ってしまうときもある	○	本人が興味を示すことを考えている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の一角にテラスがあり花火大会やお茶会 日向ぼっこなどしたり庭に花壇を作り花の種をまき楽しんでいる		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然環境に恵まれていて、安心して散歩に連れていける場所にあり昔の野道を歩いたり新鮮な空気と、取れたての野菜で食事を楽しんでいます。個性を生かしその時々の人に寄り添った個別ケアで接しています。家族からの信頼関係も厚く情報交換も蜜にしています。